

病院の実力

9/2 読売
宮城編 56

子宮・卵巣がん

排尿機能残す手術で実績

り取る手術でほとんどが治り、子宮も残せる。初期には自覚症状がなく、早期発見には検診が重要だ。

がんがやや進行した1期の場合、子宮を広く摘出せざるを得ないが、手術によって膀胱の神経が傷つき、尿漏れなど排尿障害が起る場合もある。

東北大病院（仙台市青葉区）はこの分野で東日本有数の手術実績を誇る。2001年から独自に導入しているのが排尿機能を温存する手術で、子宮摘出中に膀胱の神経を電極で刺激し、膀胱の収縮を見る。



東北大病院の
新倉仁・婦人科
科長

この手術を年間約20人に行っており、同大病院婦人科の新倉仁科長(49)は「この方法で、90%以上の方の排尿機能を残すことができる」と話す。

手術でリンパ節を取ると、足が大きく腫れ上がる「リンパ浮腫」を起こす患者が多い。同大病院では、がんが最初に転移する「センチネルリンパ節」を確認し、転移がなければ摘出範囲を縮小する手術を積極的にを行い、リンパ浮腫の発症率を大きく下げている。

今回の「病院の実力」は、「子宮・卵巣がん」を取りあげた。子宮がんは、がんが子宮の入り口（頸部）にできる子宮頸がん、奥の胎児が育つ部分（体部）にできる子宮体がんに分かれる。治療は手術が中心で、放射線や抗がん剤治療を追加することもある。卵巣がんは抗がん剤が比較的効きやすい。

若年者に多いのが子宮頸がん。主にヒトパピローマウイルス感染が原因で発症する。がんが頸部の表層にとどまる0期（上皮内がん）では、一部を切

病院の実力「子宮・卵巣がん」

医療機関別2011年治療実績(読売新聞調べ)

医療機関名	0期子宮頸がん(人)	1~4期子宮頸がん(人)	HPVのタイプ検査	子宮体がん(人)	卵巣がん(人)
東北大	123	84		92	73
宮城					
福島					

「セ」はセンター。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は10月7日「眼科」の予定です。